

総括

1. 病院の特色

貴院は 2015 年に開設から、障がい者や高齢者が地域の中で生活が続けられることを基本方針として、地域包括ケアを支えるリハビリテーションの提供を理念に掲げ活動されている。リハビリテーション科専門医 2 名をはじめ、多くの専門職を配置して地域の中核的リハビリテーション施設としての役割を果たしていることは評価できる。今回の訪問審査においては一部課題もみられたが、貴院の益々の発展に少しでも寄与できることを祈念したい。

2. 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

法人および病院としての理念・基本方針が掲示されており、おおむね適切である。ただし、回復期リハビリテーション医療に対する理念・基本方針については、今少し患者側の視点に立ち、より具体的かつ ICF に沿った内容として、周知されるとさらに良い。リハビリテーション科専門医 2 名をはじめ、人員の配置は適切である。

医療安全に向けた体制は構築されている。また、患者の急変時の対応体制として、緊急コードを設定し、実際に訓練なども実施されており、おおむね適切である。

回復期リハビリテーションの質改善に必要なデータ収集などは適切である。教育に関しては、学会発表や各種認定資格取得などには積極的な活動がみられるが、回復期リハビリテーション病棟全体の視点に立った教育・研修計画に期待したい。

急性期病院との連携は適切である。在宅復帰後の地域連携についても、院内に設置された在宅医療支援センターが中心となって適切に対応している。

3. 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

リハビリテーション科専門医 2 名が配置され、病棟専従医、主治医との連携で患者管理を行う体制となっている。医師は朝の病棟カンファレンスにも参加して患者情報の共有に努めている。入院診療計画書、リハビリテーション実施計画書ほか、関係書類の記載内容も充実しつつあるので、今後の継続を期待したい。

看護・介護職は、生き生きとした看護ケアの実現を目指して、患者の生活の再構築を支援する「エイジング・イン・プレイス」の実現に取り組んでいる。また、看護と介護は協働でケアを提供する体制にあり適切である。

療法士は、入院初期から退院に至るまで、継続して適切にリハビリテーションを提供しており 3 職種間の連携も適切である。

社会福祉士や栄養士の活動についても、おおむね適切である。薬剤師については、病棟業務の充実を期待したい。チーム医療の実践では、個々の課題を多職種で共有し課題解決に向けて活動したことが、経時的に示されるよう工夫されるとさらに良い。

4. チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

入院当日に主治医をはじめ多職種により初期評価がなされている。また、入院診療計画書、看護計画、リハビリテーション初期計画書が作成され、主治医により患者・家族に説明する仕組みが確立しており、これらの情報は電子カルテで共有される仕組みになっている。

リハビリテーション・ケアの実践では、365 日リハビリテーションを提供する仕組みがあり、進捗状況は、電子カルテ内の情報共有ツールと月 1 回のカンファレンスで共有している。

在宅復帰に向けての具体的な取り組みについては、社会福祉士が中心となって患者・家族を支援している。また、入院中の担当看護師による退院後訪問が始められている。さらには、退院後の ADL の維持のために訪問リハビリテーションや外来リハビリテーションを提供する仕組みもあり評価できる。

評価判定結果

1	良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営	
1.1	良質なリハビリテーションを提供するための体制	
1.1.1	回復期リハビリテーション病棟の運営に関する方針が明確である	B
1.1.2	良質な回復期リハビリテーション機能を発揮するために必要な人員を配置している	A
1.1.3	リハビリテーションを提供するための組織体制が確立している	B
1.2	安全で質の高いリハビリテーションを実践するための取り組み	
1.2.1	患者の安全確保に向けた体制を整備している	A
1.2.2	患者の急変時に適切に対応できる仕組みを整備している	B
1.2.3	安全で安心できる療養環境の整備に努めている	A
1.3	質改善に向けた取り組み	
1.3.1	回復期リハビリテーションの質改善に必要なデータを収集し活用している	A
1.3.2	回復期リハビリテーションに関する自院の課題の把握と対応策を検討している	B
1.3.3	回復期リハビリテーションに関する教育・研修を行っている	B
1.4	地域の医療機関等との連携とリハビリテーションの継続に向けた取り組み	
1.4.1	急性期病院と円滑に連携している	A
1.4.2	在宅復帰後のリハビリテーション・ケアの継続に向けて地域サービス機関等と円滑に連携している	A
1.4.3	在宅復帰が困難な患者のリハビリテーション・ケアの継続に向けて施設等と円滑に連携している	A

2 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

2.1	回復期リハビリテーション病棟における医師の専門性の発揮	
2.1.1	医師は専門的な役割・機能を発揮している	A
2.1.2	医師は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	B
2.1.3	医師はチーム医療の実践に適切に関与している	A
2.1.4	医師は質向上に向けた活動に取り組んでいる	A
2.2	回復期リハビリテーション病棟における看護・介護職の専門性の発揮	
2.2.1	看護・介護職は役割・専門性を発揮している	A
2.2.2	看護・介護職は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	A
2.2.3	看護・介護職はチーム医療の実践に適切に関与している	B
2.2.4	看護・介護職は質向上に向けた活動に取り組んでいる	A
2.3	回復期リハビリテーション病棟における療法士の専門性の発揮	
2.3.1.P	理学療法士は役割・専門性を発揮している	A
2.3.2.P	理学療法士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	B
2.3.3.P	理学療法士はチーム医療の実践に適切に関与している	B
2.3.4.P	理学療法士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	A
2.3.1.0	作業療法士は役割・専門性を発揮している	A
2.3.2.0	作業療法士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	B
2.3.3.0	作業療法士はチーム医療の実践に適切に関与している	B
2.3.4.0	作業療法士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	A
2.3.1.S	言語聴覚士は役割・専門性を発揮している	A
2.3.2.S	言語聴覚士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	B
2.3.3.S	言語聴覚士はチーム医療の実践に適切に関与している	B
2.3.4.S	言語聴覚士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	A
2.4	回復期リハビリテーション病棟における社会福祉士の専門性の発揮	
2.4.1	社会福祉士は役割・専門性を発揮している	A
2.4.2	社会福祉士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	A
2.4.3	社会福祉士はチーム医療の実践に適切に関与している	A
2.4.4	社会福祉士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	A

2.5	回復期リハビリテーション病棟における関連職種の専門性の発揮	
2.5.1	関連職種は役割・専門性を発揮している	A
2.5.2	関連職種は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	B
2.5.3	関連職種はチーム医療の実践に適切に関与している	B
2.5.4	関連職種は質向上に向けた活動に取り組んでいる	B
3	チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践	
3.1	初期評価とリハビリテーション計画の立案	
3.1.1	初期評価を適切に行っている	A
3.1.2	リハビリテーション計画を適切に立案している	B
3.2	専門職による回復期リハビリテーション・ケアの実施	
3.2.1	各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している	A
3.2.2	リハビリテーションの進捗状況を共有している	B
3.3	多職種による課題の共有と対応	
3.3.1	定期的な情報共有による新たな課題の評価・検討を行っている	B
3.3.2	新たな課題の解決に向けたリハビリテーション・ケアを実施している	B
3.4	在宅復帰に向けた多職種による協働	
3.4.1	在宅復帰とその維持に必要な患者固有の課題の評価・検討を行っている	A
3.4.2	在宅復帰とその維持に向けた課題の解決のための具体的な取り組みを行っている	A